

広島大学教育開発国際協力研究センター (CICE)  
平成 22 年度活動報告

**1. 調査研究活動**

**(1) 科学研究費による調査研究の実施**

- 「教育の政策改革を質的改善につなげるための国際協力のあり方に関する研究」（平成 20～22 年度 基盤研究 B 研究代表者：吉田和浩）
- 「生徒の生活満足度（幸福感）に関する国際比較教育調査 - 先進国・途上国の事例から -」（平成 22～23 年度 研究活動スタート支援 研究代表者：櫻井里穂）
- 「南アジア諸国の初等・中等教育制度拡充における宗教教育活動に関する研究」（平成 21～22 年度 若手研究（スタートアップ） 研究代表者：日下部達哉）
- 「スラムの小学校修了児童の中等教育進学機会について～ケニア・キベラからの事例～」（平成 22～23 年度 研究活動スタート支援 研究代表者：大場麻代）

**(2) 学術交流の推進**

これまでの協定締結機関は、次のとおり。ケニヤッタ大学とは大学間交流を平成 18 年度に締結し、平成 20 年 2 月には広島大学オフィス (KH-HU Collaboration Resource Centre) を発足させた。前年度実施した、共同セミナーや日本大学フェアに続いて、本年度は平成 23 年 2 月に国際センター長ほかが同大学を訪問し、今後の協力について具体的な協議を行う予定である。この協議の結果に基づき、来年度以降、医学部支援、日本語教育支援、学生交流事業等を実施する計画である。

現在締結している協定は以下の通り。

- ・マラウイ大学教育研究研修センター（部局間協定）（平成 18 年度）
- ・ケニア・ケニヤッタ大学（大学間協定）（平成 18 年度）
- ・ガーナ・ケープコースト大学（大学間協定）（平成 20 年度）（平成 14 年度に同大学教育研究所と締結した部局間協定の格上げ更新）
- ・ウガンダ・マケレレ大学教育学部（平成 20 年度）
- ・インド・国立教育計画行政大学（部局間協定）（平成 22 年度）（平成 16 年度に旧国立教育計画行政研究所と締結した交流協定の延長）

**(3) 基礎教育開発のためのアフリカ・アジア大学間対話プロジェクト**

本事業 (A-A プロジェクト) は、2004～2007 年まで、ユネスコ、JICA、国連大学との協力により実施してきた「基礎教育開発のためのアフリカ・アジア大学間対話」事業の第 2 フェーズにあたるもので、引き続きこれらの機関との協力の下、また、新たに文部科学省からの予算を得て、28 大学（アフリカ 16 大学、アジア 12 大学）が参加して、2009 年（平成 21 年度）から実施しているものである。

事業内容は、第 1 フェーズでの共同研究に加え、研究者交流、学生交流事業も新たに実施している。研究についても、従来各大学それぞれに研究テーマを決めていたが、第 2 フェーズでは、3 つのテーマ（“Equity and Gender”，“Quality and Educational Policy”，“Teacher Professional Development”）のうちから一つを選び、それに沿った調査研究を行っている。

また、このフェーズでは、参加大学により公式の（機関間の）ネットワークを形成することとし、ネットワークの規約を定め、それに正式に署名した大学のみがネットワークのメンバーとなれることとした。さらに、このネットワークは、国連大学・ユネスコの UNITWIN 事業の一つとして承認されている。

また、学内組織としては、広島大学全体として取り組むため、大学院教育学研究科、大学院保健学研究科、大学院医歯薬総合研究科、大学院国際協力研究科および、教育開発国際協力研究センターの代表者からなる、「教育開発のためのアフリカ・アジア大学間教育研究ネ

ネットワークの構築と展開」(予算要求上の名称)推進会議が21年度位に設置され、同会議により承認された事業計画に基づき、活動を行っている。

本年度については、以下の活動を行なった(予定を含む)。

- ① UNESCO UNITWIN への加盟：本 A-A Network の国際的な認証として、かねてからユネスコの大学間連携ネットワーク (UNESCO UNITWIN) に申請していたが、平成 22 年 5 月に認定された。
- ② ネットワーク第 2 回総会の開催：平成 22 年 6 月に広島大学近隣 (広島国際プラザ) において、第 2 回 A-A 総会を開催し、28 参加大学の代表により、昨年度の振り返り・年度計画・今後の展望について議論がなされた。また、開会式においては、広島大学学長、文部科学省、JICA の代表者により挨拶がなされた。
- ③ ネットワーク・ロゴの更新：平成 21 年 8 月に独自のロゴを制定したが、UNESCO UNITWIN 加盟に伴い、同ネットワークのロゴと並べた形のを、平成 22 年 4 月以降用いている。
- ④ ネットワーク・ホームページ運営：ネットワーク活動を広く紹介する目途で、ネットワーク専用のホームページを昨年に引き続き運営している。ホームページにおいて、活動目的、概要、これまでの経緯、加盟大学の紹介を行うとともに、具体的な活動予定及び報告についても常時掲載を行っている。サイトは、<http://aadcice.hiroshima-u.ac.jp/>をご参照のこと。
- ⑤ ネットワーク・紹介パンフレットの活用：昨年度作成した、ネットワーク活動に関するパンフレット (カラー版) を、国内外におけるセミナー時に配布し、広報に努めた。
- ⑥ アフリカ・アジア経験共有セミナーの開催：ザンビア教育省 (Ministry of Zambia) および JICA ザンビア事務所の後援を受け、平成 22 年 8 月 11 日より 13 日まで、ザンビア共和国のルサカ市内にて、ザンビア大学との共催により、ザンビア教育フォーラム (Zambian Education Forum) を開催した。前半第一部は、広島大学国際協力研究科ザンビアプログラムにより、JICA およびザンビア大学教育学部理数科教育科との共催で例年実施されているワークショップを行った。後半第二部は、A-A 加盟大学の研究者をゲストスピーカーとした教員職能開発に関する経験共有セミナーを行った。A-A において教員養成に焦点を当てて研究活動を行っている大学とアジアの大学から原則各 1 名を招聘した。また、フォーラムは、公開型で行われ、第一部は約 70 名、第二部は約 80 名の参加があった。
- ⑦ 平成 22 年度 JICA 集団研修の受入れ：「アフリカ地域研究を基礎とした教育の質的向上のための政策形成能力開発」と題した本研修事業において、アフリカ 3 カ国 5 名の教育研究者・行政官に加え、当センターからもアフリカ 6 カ国 6 名の研究者を招聘し、合計 11 名をアフリカから受け入れた。研修では、インドネシア、広島及び東京において、講義、関連施設 (文部科学省、県施設、大学、小学校、JICA 等) の訪問等のプログラムを実施した。
- ⑧ 教育開発共同研究の実施：昨年度に引き続き、テーマにより 3 グループ (A~C) に分かれて研究を推進している。グループ毎に研究計画会合を開催した。
  - (A) グループ A 会合：平成 23 年 1 月 12~14 日、広島大学主催により、広島国際センター (在広島市) で、グループ A の共同研究 (Equity and Gender) 活動にかかわる会合を開催した。各大学の研究の進捗状況を発表し、研究枠組みについての再確認を行い、3 月東京で行われるグループ交流会会合への参加大学を決定した。続いて、平成 23 年 1 月 18 日、神戸大学で行われた国際協力開発セミナー (「サブサハラ・アフリカの初等教育普及政策下における教育の質に関する比較分析」) に参加し、同大学副学長を A-A ダイアログとして表敬訪問した。
  - (B) グループ B 会合：平成 23 年 1 月 11~14 日の間、マラウイ大学と広島大学の共催で、マラウイ・ゾンバにおいてグループ B の共同研究 (Quality of Education and Educational Policy) 活動にかかわる会合を実施した。各大学の研究チームの研究中間発表を協議したほか、3 月に東京で開催するグループ交流会号への参加国を決定した。
  - (C) グループ C 会合：平成 23 年 1 月 10~11 日の間、ラゴス大学との共催でナイジェリ

ア・ラゴスにおいてグループCの共同研究 (Teacher Professional Development) にかかわる会合を開催した。各大学の研究の進捗状況の発表のほか、このグループの研究枠組みや原則について再確認が行われ、さらに、今後の研究日程についても話し合われた。また、3月に行われる、3つのグループの交流会への参加大学を決定した。グループ会合終了後、12～13日には、ナイジェリア国内の研究者等の参加も得て、“Symposium on Teacher Professional Development in an Era of Global Change”を開催した。

- ⑨ 研究グループ交流会の開催：各グループ間の研究状況等の報告や研究フレームワーク等の確認のため、グループ交流会を平成23年3月16～17日に東京で開催する予定である。各グループより、円滑に研究が進められている3～4大学を海外より招聘する。
- ⑩ 学生交流活動：昨年度発足したA-A海外インターンシップ制度により、本年度はザンビアとマラウイにて上記会合が開催される折、準備及び運営補助を行うべく、学生インターンを募集した。学部生計2名、大学院生計4名が派遣された。インターン活動中は、A-A加盟大学の研究者と交流した。
- ⑪ 叢書の発行：昨年度ガーナで開催した経験共有セミナーと、本年度ザンビアで開催したフォーラム第二部（上記参照）については、その発表内容をより広く周知するため、発表ペーパーを広島大学教育開発国際協力研究センター（CICE）叢書として、今年度中に刊行する予定である。

## **2. 戦略・政策提言**

### **(1) 文部科学省「国際協カイニシアティブ」事業の中核的な役割を果たす機関**

サブサハラ・アフリカ諸国の教育の質的改善に寄与しようとする神戸大学「サブサハラ・アフリカにおける初等教育普及政策および行財政制度に関する比較研究」、および鳴門教育大学「授業を中心とした校内研修の導入による初中等教育の質的向上」における、全体調整の機能を果たし、上記「アフリカ・アジア大学間対話プロジェクト」とも有機的に関連付け、実施支援している。

### **(2) 文部科学省、外務省、JICA、JBIC等への協力**

- ・外務省 EFA ファスト・トラック・イニシアティブ中間評価外部監理委員（平成20年度から）
- ・外務省国際教育協力協議会委員（平成20年度から）
- ・財務省開発問題研究会講師（2010年12月）、教育セクターローンの推進について

## **3. 知見の集積・発信**

### **(1) 第8回国際教育協力日本フォーラム（JEF VIII）－自立的教育開発に向けた国際協カ－**

文部科学省、外務省、筑波大学との共催により実施（平成23年2月3日、東京・学術総合センター）した。今年度のテーマは、地域コミュニティと教育開発。

### **(2) 「国際教育協力論集」の発行**

国際教育協力分野では我が国で唯一の学術研究誌「国際教育協力論集」を発刊している。本年度は、第13巻第1号（和文）、第2号（英文）を刊行した。なお、3月15日には、第2号の特集、教育援助の有効性について、国際シンポジウムと東京（政策研究大学院大学）で開催予定。

### **(3) CICE セミナー**

第120回：平成22年5月7日（会場：広島大学CICE国際研修室）

題目：Aid to Education in a Situation of Rapid Population Growth Seminar1: The Elephant

in the Room: Education, Population Growth and the Development agenda  
講師 : Dr. Digby Swift (CICE 客員教授, Formerly Department for International Development, UK)

第 121 回 : 平成 22 年 5 月 20 日 (会場 : 広島大学 CICE 国際研修室)  
題目 : Aid to Education in a Situation of Rapid Population Growth Sminar2: Two Steps Forward, One Step Back: Planning Education Reform in the Context of Rapid Population Growth  
講師 : Dr. Digby Swift (CICE 客員教授, Formerly Department for International Development, UK)

第 122 回 : 平成 22 年 6 月 17 日 (会場 : 広島大学 CICE 国際研修室)  
題目 : Aid to Education in a Situation of Rapid Population Growth Sminar3:A Gentle Push: Role of Incentives in the Dynamics of Population Growth and Education Reform  
講師 : Dr. Digby Swift (CICE 客員教授, Formerly Department for International Development, UK)

第 123 回 : 平成 22 年 6 月 24 日 (会場 : 広島大学 CICE 国際研修室)  
題目 : Abolishing Secondary School Fees to Increase Access by the Poor? A Study from Rural Kenya  
講師 : Dr. Asayo Ohba (CICE 研究員, Hiroshima University)

第 124 回 : 平成 22 年 7 月 8 日 (会場 : 広島大学 CICE 国際研修室)  
題目 : Aid to Education in a Situation of Rapid Population Growth Sminar4: Getting a Balance: The Relevance of Education Aid Modalities to Demographic Transition  
講師 : Dr. Digby Swift (CICE 客員教授, Formerly Department for International Development, UK)

第 125 回 : 平成 22 年 7 月 15 日 (会場 : 広島大学 CICE 国際研修室)  
題目 : 社会変動期における教師と教育改革—ボリビアの教員組合のフィールドワークから  
講師 : 岡村 美由規 (CICE 研究員, Hiroshima University)

第 126 回 : 平成 22 年 8 月 20 日 (会場 : 広島大学 CICE 国際研修室)  
題目 : Policy and Legislation on Inclusive Education: Situation of Bangladesh  
講師 : Dr. Sharmin Huq (CICE 客員教授、University of Dhaka, Bangladesh)

第 127 回 : 平成 22 年 10 月 7 日 (会場 : 広島大学 CICE 国際研修室)  
題目 : Reducing School Dropout through Inclusive Approach to Education: Bangladesh Context  
講師 : Dr. Sharmin Huq (CICE 客員教授、University of Dhaka, Bangladesh)

第 128 回 : 平成 22 年 10 月 21 日 (会場 : 広島大学 CICE 国際研修室)  
題目 : The Vision of teacher Education: Inclusive Instructional Strategies Bangladesh  
講師 : Dr. Sharmin Huq (CICE 客員教授、University of Dhaka, Bangladesh)

第129回：平成22年10月28日（会場：広島大学 CICE 国際研修室）

題目：Education in Slum Schools in Nairobi

講師：Dr. Elijah Otieno Odundo (Programme Manager, Sustainable Urban Environment Development Programme Kenya Organization for Environment Education (KOE))

第130回：平成22年12月9日（会場：広島大学 CICE 国際研修室）

題目：Tribulation of Freedom Guise of Change Temptation to Reform Cajoling a Revolution

- The Case of Enhancing and Sustaining Teacher Education in Malaysia Seminar1:
- Inheritance of an Alien System - A Heritage of Division - A Legacy of Diversity
- A Recipe for Conflict - A challenge for Education Development

講師：Prof. Abdul Rashid Mohamed (CICE 客員教授、Universiti Sains, Malaysia)

第131回：平成22年12月16日（会場：広島大学 CICE 国際研修室）

題目：Tribulation and Temptation in Reforming Malaysian Teacher Education Part 1

講師：Prof. Abdul Rashid Mohamed (CICE 客員教授、Universiti Sains, Malaysia)

第132回：平成22年1月20日（会場：広島大学 CICE 国際研修室）

題目：Tribulation and Temptation in Reforming Malaysian Teacher Education Part 2

講師：Prof. Abdul Rashid Mohamed (CICE 客員教授、Universiti Sains, Malaysia)

第133回：平成22年2月16日（会場：広島大学 CICE 国際研修室）

題目：Tribulation and Temptation in Reforming Malaysian Teacher Education Part 3

講師：Prof. Abdul Rashid Mohamed (CICE 客員教授、Universiti Sains, Malaysia)

第134回：平成22年2月17日（会場：広島大学 CICE 国際研修室）

題目：Tribulation and Temptation in Reforming Malaysian Teacher Education Part 4

講師：Prof. Abdul Rashid Mohamed (CICE 客員教授、Universiti Sains, Malaysia)

#### (4) その他セミナー等

特別セミナー「タイにおける教育改革の進展：グローバル、国家、地方や地域をめぐる緊張の増大 比較の視点から」The Evolution of Educational Reform in Thailand: Growing Tensions among the Global, National, Regional, and Local, a Comparative Perspective.

平成23年2月2日 13:15-14:45

場所：東京キャンパス・イノベーションセンター（田町）

講演者：Prof. Gerald W. Fry (Professor, College of Education and Human Development, Department of Organizational Leadership, Policy, and Development, University of Minnesota, USA)

特別セミナー「誰が学校へ行くのか？ 基礎教育におけるアクセス、参加、公正の論点について」” Who goes to school? Issues of Access, Participation and Equity in Basic Education”

平成23年2月2日 15:00-16:30

場所：東京キャンパス・イノベーションセンター（田町）

基調発表：Prof. R. Govinda (Vice-chancellor, National University of Educational Planning and Administration, India)

#### (6) ホームページの維持管理

・CICE のホームページをリニューアル。「国際教育協力論集」の全巻 PDF ファイルにて掲載。

### 4. モデル事業実施支援等

#### ○平成 22 年度 JICA 集団研修の受入れ

「アフリカ地域研究を基礎とした教育の質的向上のための政策形成能力開発」と題した本研修事業において、アフリカ 3 ヶ国 5 名の教育研究者・行政官に加え、当センターからもアフリカ 6 ヶ国 6 名の研究者を招聘し、合計 11 名をアフリカから受け入れた。研修では、インドネシア、広島及び東京において、講義、関連施設（文部省、県施設、大学、小学校、JICA 等）の訪問等のプログラムを実施した。

### 5. 人事

#### (1) 採用

平成 22 年 4 月 1 日 日下部達哉准教授  
平成 22 年 10 月 1 日 河野佐智研究員

#### (2) 転任

平成 22 年 7 月 31 日 岡村美由紀（教育学研究科助手）

### 6. その他

#### (1) 外国人客員研究員の招聘

次の 3 名を客員教授として招聘した。

- ・Digby Swift (Formerly Department for International Development, UK)  
(平成 22 年 4 月～7 月)
- ・Sharmin Juq (Universit of Dhaka, Bangladesh)  
(平成 22 年 8 月～10 月)
- ・Abdul Rashid Mohamed (Universiti Sains, Malaysia)  
(平成 22 年 11 月～平成 23 年 3 月)

#### (2) 外国人専門家等の招聘

- ・教育開発のためのアフリカ・アジア大学間対話事業の第 2 回年次総会開催に伴い、アフリカから 17 名、アジアから 4 名を招聘した。
- ・教育開発のためのアフリカ・アジア大学間対話事業の一環として、“Education on Slam Schools in Nairobi” 講義のために、アフリカから 1 名を招聘した。
- ・平成 22 年度 JICA 研修「アフリカ地域研究を基礎とした教育の質的向上のための政策形成能力開発」実施に伴い、アフリカから 7 名、フランスから 2 名を招聘した。
- ・第 8 回国際教育協力日本フォーラム開催に伴い、アフリカから 2 名、アジアから 1 名、米国から 1 名を招聘した。

#### (3) インターンシップの実施

実質的には、平成 13 年度から行ってきたが、15 年度から実施要項を定め正式な制度として実施することとした。平成 22 年度は 11 人のインターン（学部生 7 名、大学院生 4 名）を受入れ、特定のプロジェクトの実施や CICE が実施する研修、国際会議等の活動の補助などを行った。

また1(4)で既に示した通り、A-A Dialogue 事業のもとに、インターを海外に派遣した。平成22年度は6名のインターン(学部生2名、大学院生4名)が海外で開催される国際会議の準備及び運営補助を行い、A-A 加盟大学の研究者と交流した。

#### (4) 大学院教育への協力

センター教員4名すべてが大学院国際協力研究科の担当となっており、授業として「国際教育交流論」(黒田教授)、「国際教育協力論」(吉田教授)、「基礎教育開発論」(櫻井准教授)、「途上国の比較教育」(日下部准教授)を、ゼミとして「高等教育交流論演習」(黒田教授)、「教育開発国際協力論演習」(吉田、櫻井、日下部共同開講)をそれぞれ担当している。

(平成23年2月作成)